

きもの豆知識

草履の素材について

最近、草履のトラブルをよくご相談受けます。その相談は『足が痛い』『表面が割れてきてしまった』『底がはがれた』『べたべたする』と、この4つがご相談のほとんどのようです。



『足が痛い』というのは鼻緒の調整をしてあげれば解消しますが、後の3つは厄介！その理由は素材と草履の構造にあります。
草履の台の素材には大きく分けて合皮と本革があります。
本革は耐久性がありますが、合皮は一般的に寿命が10年といわれており、特に湿気や水濡れによってもっと早く劣化していくようです。
つまり、はがれやべとべとは合皮の台が湿気を吸うことによって劣化したということになります。保存の状態によって劣化も早まることがあるので、草履は大事にしまっておかずできるだけ早めに履きつぶすか、少し高価でも本革の草履がおすすめです。



底が革のタイプは雨にぬれると革がはがれやすくなるので雨の日に履く場合はそこがゴムなどの雨用の草履の着用をお勧めします。



かわちやのオリジナル草履は台のカラーリングを選べたり、鼻緒の組み合わせなどで自分だけの個性的な足元にすることができます。

最近では、そこがゴムで革の耐久性の高い素材が開発され利便性も上がっています。

歌舞伎のススメ

～め組の喧嘩（めぐみのけんか）～

『火事と喧嘩は江戸の華』といわれるように江戸時代の江戸は他の都市より圧倒的に火事が多く、関ヶ原の合戦の翌年（1601年）～大政奉還の行なわれた（1867年）までの267年間に49回も大火が起き、中でも明暦の大火（めいれきのたいか）は江戸の大半を焼き、死者も10万人以上出たといわれています。それゆえ危険と隣り合わせの火消しの仕事は花形の職業であり、江戸の男たちのあこがれの職業でした。一方、1年間を20日で暮らす閑取り。この2つの意地と意地がぶつかり合い大立回り演じる物語『め組の喧嘩』。

話は正月の遊郭島崎楼。隣り合った座敷で飲んでいる相撲取の四ツ車（よつぐるま）らと、鳶頭辰五郎らが、四ツ車の弟子の取的（とりてき）が相撲甚句を踊るうち、障子を蹴倒して隣座敷に踏み込んでしまう。血の気の多い鳶の藤松が怒って喧嘩になるところを、め組の頭（かしら）辰五郎が収めるところから話が始まる。この演目の最大の見せ場は大詰めの勢揃いからの大立ち回り。ダイナミックな見せ場、身の軽い鳶の面々が屋根に飛び上がったり、屋根からトンボを切る派手な立ち廻りが楽しめます。前にご紹介した11月のシネマ歌舞伎でも上映されますので、チェックしてみてください。



竹次郎～TAKEJIRO CAFE～ コラム



↑イメージ写真ですよ

6月～9月までかき氷をメニューに加えましたが、10月からはぜんざいを始める予定にしています。といいつつもこの新聞をかいている時点ではまだぜんざいが完成していないのですよ。10月12日から間に合うのか心配です。

草木染講習会

日時 11月22日（水）

午前の部 9:30～午後の部 13:00～

会費 1,000円（1回につき）+材料費

用意するもの：厚手のゴム手袋、エプロン

植物染料で染めた布に
ハンコ染めで柄を染めよう！



植物染料を塗った布に着抜液を塗った好きな形のハンコで色を抜きます。
のれん、タペストリー、バッグなど

型染を巡る旅展

豊橋ではじめて展示いたします。

とき 2017
10/27（金）～29（日）

午前10時～午後5時

ところ 豊橋市三の丸会館 松・竹の間

豊橋市今橋町3-1
TEL (0532) 56-6022 FAX (0532) 56-6022
<http://www.bunzai.or.jp/sannomaru/>

新コーナー

今月のコーディネート



少し涼しくなってきました。少しずつ秋の装いに色合いも濃い目を使うとぐっと秋めいてきますね。中に着るTシャツは少しカラフルな色を入れて地味になりすぎないように

久留米紺ベスト 25,920円
Tシャツ 4,780円
ネックレス 6,480円
久留米紺スカート 46,440円

イベント案内

ギャラリーカフェ

竹次郎 TAKEJIRO CAFE

10月12日（木）～16日（月）

ミスキョウコの靴と普段着の着物を特集します。

型染を巡る旅展

10月27日（金）～29日（日）